

日時 令和6年1月26日(月) 15:30~17:00

場所 本校会議室

出席：森委員長 梅原委員 佐藤委員 上江洲委員 井手委員 学校側13名

司会：教頭

傍聴なし、過半数を超えたため会議成立

教頭挨拶：資料説明（経営計画、自己診断、ニュースレター、電子黒板対応プロジェクター及び対応黒板の紹介）

校長挨拶：本校状況報告、これまでの協議会の振り返り

今回は R5 学校経営計画および、R6 学校経営計画について審議していただきたい。

### 3.R5 学校経営計画 進捗状況について

・R5 経営計画の校長より報告（一部 4.R6 の学校経営計画（案）に対する説明も含む）

2 ページ 学校教育自己診断の結果、第 1・第 2 回の運営協議会のご意見等を今後記載する。

3 ページ下（生徒）授業がわかりやすい 肯定的評価 65%以上が目標 昨年 59%→今年 70%

10 ポイント以上の大幅増 \*うち「よくあてはまる」は 13%にとどまる。

4 ページ 進路説明会 攻めの姿勢がある。

5 ページ 人権について学ぶ機会 上昇

（教員）生徒問題行動に組織対応 83%→64%に大幅に低下、今後の検討が必要である。

進路指導に関する評価が高いのが特徴。

部活動の加入率 64% 毎年微増している。

遅刻回数 激増している。

全体的には、少子化の中、比較的安定した学校運営・経営ができています。

### 5.学校教育自己診断分析

・教頭より分析結果を説明、首席よりスライドを使いながら分析結果を説明

### 6.協議

・手厚く指導してくれている。国際文化科のクラス内で、留学生とも交流できて、楽しく過ごしている。スペイン語・スペイン文化を学んで充実している。担任からもフォローいただいている。

・自己診断から、「学校が楽しいという割合が増えたが、後輩に勧めるという割合が下がった」の理由、子と話す中で勉強する雰囲気あまりない、という意見を聞く。

→1 年生のうちは真面目、2 年生は中だるみ。自分がやりたいことが先に来る。進路に対してピンと来ていないのかも。この結果を踏まえて段階的に指導する

→3 年生になると変化を感じた。行事に注力してしまう傾向

・後輩に勧めるかは、人それぞれのニーズによる。好きなところに行けばいいという発想で回答しているのかも。

不安定な社会構造の中、勉強→良い将来、という道筋が見えない。自分の将来を自分事として捉えられるような働きかけが必要。コロナ以降、大きく変わった。

・勉強に集中することの難しさ。コロナ以降のライフスタイルの変化が、勉強時間の少なさに反映されているのかも。

- ・子の様子を見ているとストレスマネジメントができています。進路のことも話すなど、変化を始めている。
- ・コロナの影響は今後もっと出る。学習面や私生活の部分でも大きく変わっている。
- 校長：大学では変化を感じるか
- ・特に感じることはないが、プレゼンとかは上手な印象。授業はそれほど欠けていないが、サークル活動等に制限が大きくあったので、それをどう捉えているか心配ではある。
- ・授業のわかりやすさ、生徒は高い評価だが、保護者との差が見られる。保護者は子どもの点数を見て懐疑的になるのかもしれない。
- ・授業レベルをどこに設定するかが大事かと思う。

旭高校への意見あればお話しください。

- ・応援団楽しい。教員・学校に感謝している。
- ・行事を再起動させる苦労があったと思う。
- 他校では海外研修で体調不良者が多かった。
- 教員の業務としては問題なくできた。ただ生徒間での継承は苦労したと思う。

- ・朝の登校指導。ギリギリで登校する生徒が少なくなった印象がある。
- もっと遅くなっているだけかもしれない。
- ・たびたび「遅刻に関する情報」がこの場で挙がるが、何故だろう。
- ・特定の子が繰り返す傾向にあるのではないか。家庭環境も要因ではないかと思う。

- ・高校への進路希望調査において、国際文化科が、軒並み割れている→国際文化科の二ーズの差。府の考えと中学生の考えの差。これから求められる国際理解とは何か。
- 旭の魅力について日々思案している。
- ・大学も外国語ブームは落ち着いた。文学部等。社会学系統に人気が集まっている。
- ・国際理解教育で色々な国のことを学んでいる。将来共生していく可能性を指導。日本語ができない渡日生のための「架け橋」というクラスがある。今後の日本のキーポイントになりうるのではないか。

学校への意見書の提出は無かったことを再度確認し、協議を閉会したいと思います(教頭)。

## 7. 校長謝辞

## 8. 諸連絡